

序論) 日曜日の振り返り

みなさん、クリスマスおめでとうございます。世の光として来られた【主】を覚えながら、みなさんと共にこの燭火礼拝のときを持つことを感謝いたします。

さて、ここ数年の燭火礼拝ではほぼ信徒のみなさんと共に礼拝をしているので、今日はクリスチャン向けのメッセージをさせていただこうと思います。

先日のクリスマス礼拝では、ヨハネの福音書から神さまのみ心を実行する「ことば」であり、創造主である【主】イエス・キリストが、人生の迷子になっている私達のところに、私達を照らす光として来てくださったこと、そして、このお方によって私達は神さまの栄光を現すスターになることができる。ということアメリカの俳優であり、牧師であるクリストフ・デイヴィスさんの証しと合わせてお話ししました。

今日は、そのようにキリストによって救われた私達が、この世にあってどのように生きていったらよいのかを御言葉から教えられていきたいと思います。

1) 今日のみことばの結論「恐れつつ歩みなさい」

まずは17節を読みましょう。

1:17 また、人をそれぞれのわざにしたがって公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、この世に寄留している時を、恐れつつ過ごしなさい。

ここに今日の箇所結論があります。それは「この世に寄留している時を、恐れつつ過ごしなさい。」ということです。

「この世に寄留している時」というのは、私達がこの世において一時的な歩みをしているということであり、やがて天の御国に行くことを前提とした人生を歩んでいることを意味しています。私達は寄留者であり、人生の旅人です。私達にとってこの世の人生が全てではなく、寧ろ通過点でしかないのです。しかし、聖書はこの世の旅を適当に過ごしなさい。とか、どうせ一時的なことなんだから好き勝手に歩みなさい。とは教えません。

聖書はこの人生という旅を「恐れつつ過ごしなさい」と教えています。ここでいう恐れとは、いわゆる「恐怖」のことではなくって【主】を敬うことであり、

【主】の前に敬虔な歩みをするということです。

私達の目的地は神の国です。その神の国を目指す旅人である私達はこの世にあって【主】を敬い、【主】に対する恐れをもって敬虔に歩みなさいと聖書はいうのです。

2) 【主】を恐れて歩む理由

では、なぜ私達は【主】を恐れて敬虔に歩まなければいけないのでしょうか。今日の箇所には3つの理由が書かれています。

① 父は裁き主だから

一つは、私達が父なる神さまと崇めるお方は、公平な裁きをする裁き主だからです。ここでいう公平というのは「外見的事実に依らずに裁く」ということです。つまり、【主】は見た目の立派さや、表面的な敬虔さによるのではなく、実際に心から【主】の前に正しい歩みをしていたかを見て判断されるということです。

クリスマスというと、神さまの愛、神さまの恵み、神さまの憐れみということがしきりに語られますし、私もそういったことをクリスマスのときには特に語るようにしています。

しかし、私達が神さまの愛を知るためには、父なる神さまは見た目には依らず、心の中も含めて私達の真実を見て判断されるということを忘れてはいけません。例えば毎週礼拝に出てきていたとしても、このように燭火礼拝のために集っていたとしても、父なる神さまは私達のすべてを知っておられ判断されるお方です。だからこそ、私達は全人格的に、このお方を恐れ敬い、敬虔な歩みをしなければいけないのです。

② キリストの血によって贖われたから

そして、私達が【主】を恐れて歩まなければ行けない2つ目の理由は、私達が【主】に贖われた者だからです。18節、19節を読んでみましょう。

1:18 ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、

1:19 傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

聖書は私達が以前は「空しい生き方」をしていたと述べています。「空しい」

というのは、目的や結果が伴わないことであり、その空しい生き方は先祖から伝わっていたものだと言います。

先祖から伝わってきたものという、日本の文化に当てはめるのならば、「夜に爪を切ると親の死に目にあえない」とか「北側に枕置いて寝ると不吉なことが起こる」とか、そういったことでしょうか。さすがに最近ではそういった迷信にとらわれている人はいませんが、

でも、「いい大学にいかないと立派な人生を歩めない」とか、「高収入の職業につくことが人生の成功だ」とか、最近では「頑張ることはダサいことだ」とか、そういった偏見や思い込みによって人生が縛られ、神さまの前で本当の価値があるものを生み出すことができない空しい人生のことです。

世の中の人たちをみても、一見するとビジネスが成功して高収入になり、人生の勝ち組と思えるような人たちが、実際には自分の生きる目的を見失って迷っていることが多くあります。

でも、私達はそのような空しい人生から【主】イエス・キリストの血によって贖い出されたのです。

それは神さまの前で本当に価値があるものを生み出すことができない人生から救われ、永遠の価値があるものを生み出すことができる人生へと変えられたことを意味しています。

私達は、キリストに救われたことによって、神さまに喜んでいただけるものを生み出すことができる人生へと切り替えられたのです。

しかも、この人生の転換のために支払われた代価は、この世の金や銀といった何れ価値を失ってしまうものではなく、傷も汚れもない子羊のようなキリストの血です。つまり、神さまは私達にキリストの命を代価として払うだけの価値をみてくださっているのです。

私はサラリーマン時代、営業の人と一緒に行動をしていた時期がありました。営業の人達はどれだけの売上をあげたのか。どれだけのノルマを達成したのかで評価されます。どうゆうやり方でもいいから、結果を出したら評価され、成果をあげることができなかつたら上司から厳しく叱られます。この世の人たちは結果を出しているかどうかで判断をします。

でも、神さまは違うのです。神さまは私達が空しい人生を歩み、神様の前で価値のある成果を出すことが出来ない時から、私達にキリストのいのちという最も高価なものを払うだけの価値があると私達のことを認めてくださり、そのキリス

トの血によって私達を贖い出してくださいました。

【主】はそれだけ、私達を愛して期待してくださっているのです。

そうであるのならばそれほどの価値を認めてくださっている【主】の期待に答えるという意味でも、【主】を恐れて歩むことが必要なのです。

③ 信仰と希望は、キリストを与え、蘇らえさせた神にあるから

そして、【主】を恐れて歩む3つ目の理由は、私達の信仰と希望は、世界で最初のクリスマスのときにキリストをこの世に送り出し、そのキリストを蘇らせてくださった神さまにあるからです。20節、21節を読みましょう。

1:20 キリストは、世界の基が据えられる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために現れてくださいました。

1:21 あなたがたは、キリストを死者の中からよみがえらせて栄光を与えられた神を、キリストによって信じる者です。ですから、あなたがたの信仰と希望は神にかかっています。

20節はキリストがこの世に来てくださったことを意味していますね。そして、21節の前半では神さまがそのキリストをよみがえらせて栄光を与えられたことが書かれています。

私達がよくクリスマスの意味を説明するとき、神さまが私達を愛してキリストをこの世に送ってくださったこと、そして、そのキリストは十字架の上で私達の身代わりとなって死んでくださったことを強調します。

実際、私も先日の振内チャペルにおけるクリスマス燭火礼拝では、そのように振内の人たちに伝えました。でも、私達にとって大切なのはキリストの誕生と受難だけではありません。その後、キリストのよみがえりと、その蘇ったキリストは神さまから栄光が与えられているということも大切なのです。

なぜならば、このキリストの復活こそ、私達の信仰と希望の土台だからです。キリストが死者の中から蘇られたということは、私達も死の中から蘇ることができることを意味しています。そして、その蘇ったキリストが神さまからの栄光が与えられているということは、私達も【主】の栄光が与えられており、先に栄光が与えられたキリストにすがってこれからも生きていくことができるのです。

みなさん、キリストは今何をされているのでしょうか。キリストは今、神さまの

右の座について私達のためにとりなしてくださっています。

だから、私達が例え死んだような人生を歩んだとしても、取り返しがつかないと思えるような失敗をしたとしても、それでも私達は何度でも人生をやり直し、【主】が求めておられる人生を歩むことができるのです。

そうであるのならば、私達はこの世のものを恐れる必要はありません。ただ、【主】だけを恐れ、【主】のみ心を求めて歩んでいくことが大切なのです。

3) 【主】を恐れて歩むとは具体的にはどのようなことか

では、私達が【主】を恐れて歩むとは具体的にはどうゆうことでしょうか。いくつかのみことばが思い浮かびます。

例えば、ローマ 12 章 1 節

12:1 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

私達の体を【主】にささげていく、これこそ【主】を恐れて歩むことといえるでしょう。もう一つ、このことを考える上で与えられた御言葉がありました。それはヤコブ 1 章 27 節です。

1:27 父である神の御前できよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないよう自分を守ることです。

ここで宗教と訳されている言葉は「礼拝」とも訳すことができる言葉が使われています。口語訳とかだと「信心」と訳されています。私達はただ形だけの礼拝をささげていても本当の礼拝をしているとはいえないし、【主】を恐れ敬っているとはいえないでしょう。【主】が求めておられる宗教生活や礼拝は、実際に貧しい人、弱っている人たちを助け、空しい歩みをさせるこの世に染まらないようにしていくこと、それが【主】を恐れ歩んでくことになるのです。

私はこのクリスマスの時期、聖書を読むと共に色々なクリスマス関連の本を読みます。童話を読んだり、絵本を読んだり、クリスマス関連の証し集を読んだり、説

教集を読んだり、色々よみました。

その中で多かったのは、【主】によって幸福を与えられている人たちが、自分が持っている物を貧しい人、弱っている人、助けを必要としている人たちに与えることによって、寧ろ自分たちが平和な心を得ることができた。という話しです。

例えば、こんな話がありました。

アメリカのクリスマスの時期に心臓のドナーを待っていたダンという高校生がいました。心臓のドナーですから、その人は心臓が悪かったんですね。でも、なかなか与えられず、クリスマスときには一時的に家に帰って家族と一緒にクリスマスを過ごすことにしました。ところが、いざ家に帰ってみると、家にいたおばあちゃんがすぐに病院に戻りなさいというのです。それはなぜかというと、心臓を提供する人が与えられて、四時半までに病院に戻らなければその心臓は使えなくなってしまう。というのです。でも、その時はすでに3時半になっており、病院に来るまで戻るには1時間半かかります。すると、おばあちゃんは何と飛行機をチャーターしてくれていて、すぐに警察が空港まで誘導してくれたのです。そして、彼は4時26分に病院に到着し、心臓移植の手術を受けました。

このニュースはラジオ放送にも流れ、手術が成功するように祈ってほしいという呼びかけもされました。多くの人が祈り、無事手術は成功しました。

その後、その人のところには多くの励ましの手紙やプレゼントが届いたそうです。その中で一通の手紙が彼の心を震わしました。

「親愛なるダンへ。私達はあなたに会ったこともありませんが、主人も私も、あなたとご家族に大きな親しみを覚えています。それはあなたに心臓を提供したのが、わたしたちの一人息子のロイドだからです。あなたがロイドの心臓をもらってくださったことを知り、一人息子を失った悲しみはずっと耐えやすいものとなりました。愛をこめて。ポール&バーバラ・チェンバーズ」

ダンはこのことを通してクリスマスの意味を深く感じたそうです。

まさにいのちを提供したロイドとその家族。しかし、それが無事受け取られたことによって慰めを感じたということです。

私はこのようなクリスマスのお話をいくつも読む中で、私はこのような【主】が喜ぶ行動を積極的にしていなかったな。年末年始忙しいといいながら、【主】を恐れて御心を実行することを後回しにしていたと悔い改めさせられました。

【主】を恐れるのならば、【主】が愛しておられる人々を愛し、与える愛を実践していくことが、【主】を恐れて歩むことになるのではないのでしょうか。

まとめ)

みなさん、2000年前にキリストをこの世に送ってくださった神さまは、外見だけでなくすべてをみて公平に裁かれる【主】です。しかし、その【主】は私達を空しい人生から贖いだすために、傷も汚れもない尊いキリストの血を流されました。それだけ、私達のことを高価な存在として認めてくださったのです。そして、その神さまはキリストをよみがえらせ、栄光をお与えになり、私達もキリストと一緒に蘇り、【主】の栄光を現すことができると教えて下さいました。

みなさんはこのクリスマスなにをされたのでしょうか。【主】をおそれ、【主】のみ心に叶う歩みをされたのでしょうか。【主】は弱い人、助けが必要なひとを助けたいと思っておられます。また、私達自身がこの世の空しい価値観に流されることのないように求めておられます。

この【主】のみ心に答え、形だけのクリスチャン生活ではなく、実際に【主】の愛を誰かに実践してみましよう。

それが【主】に愛され、御子イエス・キリストによって贖われた私達のこの世における生き方だと思います。

お祈りいたします。